

## 『行事は人を育てる』

5月28日（土）に、令和4年度の運動会を無事開催することができました。

『行事は人を育てる』とよく言われますが、運動会という行事を行うことで、子どもたちは心も身体も大きく成長することができました。日頃、子どもたちの教育活動に間近で関わっている私たち教職員が子どもたちの成長を実感するぐらいですから、保護者の皆様にとりましては、ますます感じられたことと思います。子どもたちの成長をとてうれしく思います。

子どもたちと関わる中で、子どもたちに達成感を感じさせる教育活動の重要性を実感いたします。この度の運動会でも実感いたしました。

子どもたちにとって、最初は「できないな」「難しいな」と感じたことでも、練習を積み重ねできるようになった時に、「やった！できた！」という達成感を感じることができます。そして、仲間とともに一つの演技をする時に、一人一人の達成感が、仲間とともに一つのことを成し遂げた達成感へと変容し、大きな満足感（達成感）や気持ちよさとなって、子どもたちの心に返ってくるのだと思います。

それが、表現演技の中の、かけ声であったり、鳴子の音であったり、フラッグの音であったりと、五感を通して子どもたちが感じているのだと思います。

一つの行事を成功させるために、一人一人が精一杯努力し、自分の中で達成感を味わえた時に、「ああ、楽しかった。また、やりたいな。次は、何に挑戦しようかな。」と考えられるようになります。この達成感を子どもたちが十分に堪能できるように、周りにいる大人がサポートすることが大事なことだと考えています。

日々の子どもの努力に対する称賛やサポート、一つのことを成し遂げたことへの称賛等、その時その時の子どもたちへの関わりが、子どもたちを育てることにつながっているのだと考え、実践しています。

運動会の練習の際の、教師の子どもたちへの声かけは、「～ができるようになりました。すごく上手です。」「～ができるようになると、さらにいいなと思います。」等々、聞き手が「がんばろう」と思うメッセージをよく発信していました。プラスの言葉の威力も、この運動会を通じて、改めて実感しました。

子どもたちは、この度の運動会（運動会の練習の過程も含めて）は、心に残るものになったことと思います。そして、次の新たなる取り組みについても、意欲をもって頑張れる子どもたちだと楽しみにしています。

## 高学年（5・6年生）のやさしさ、最高です！

高学年が、低学年のイス出しやイスの片付けのサポートをしてくれました。3年ぶりの運動会で、教室からイスを運動場に出しての運動会は、3年生以下は初めての体験です。そこで、1・2年生のイス出しを6年生が、運動会終了後の1・2年生のイスの片づけを5年生がサポートしてくれました。素晴らしいです。1・2年生は、5・6年生がやさしくしてくれたことをきっと覚えてくれていると思います。



5・6年生のお兄さん・お姉さん、やさしくしてくれて、ありがとう。





## 一人一人が精一杯頑張った徒競走

運動会の徒競走と言えば、**相田みつおさんの**

『いのちのバトン』を思い出します。

「順位をつけるのは走らない傍観者」

「走っている当事者は、ただひたすら走るだけ。  
いのちいっぱい走るだけ。みんな百点満点なのだ」

「それぞれに能力の差はあるけれど、いのちの尊さは同じ」（詩の一部抜粋）

子どもたちの精一杯の頑張りを称えたいです。



## 百点満点のビリ（一部抜粋）

「わあ！！うちの太郎は一着よ！！」  
「うちの花子は二着だ！！」  
一着だ、二着だ、と  
順位をつけるのは大人達  
つまり、自分では走らない傍観者

走っている当事者

子供達は \_\_\_\_\_

ただひたすら走るだけ  
いのちいっぱい走るだけ  
いのちいっぱいに走ることが尊いのだ  
いのちいっぱいに走ることは  
みんな百点満点なのだ

一着二着の順位はあるけれど  
一着も百点満点  
二着も百点満点  
そして  
百点満点のビリなのだ

一人一人の人間には  
それぞれに能力の差はあるけれど  
いのちの尊さは同じです  
どんな人のいのちでも  
平等に百点満点に  
尊いからです



5・6年生は、自分たちで  
入場・退場をします。

5年生は5年生なりの、6  
年生は6年生なりの自立がで  
きています。うれしいことだ  
す。